

総合科学の基礎C
哲学思想の基礎

2018/06/01

宿題小テストの解答

第1問

- 6月8日分のコメントについて
- 「私はこの「すべての物体は広がりをもつ」という命題が経験的ではないということに疑問があった」というコメントになんと応答したか。

- ① これはデカルトによる物体の定義。
- ② これは物理学による物体の定義。
- ③ これは実は経験的な命題。
- ④ なぜ経験的でないのか説明してください。

第2問

- 「日本人が英語を訳すときに意味がたくさんある単語があったり、少しの日本語の違いからニュアンスが変わったりするということを主張する」というコメントになんと応答したか。
- ① もしもあなたに英語のニュアンスが理解できなければ、日本語と英語でニュアンスが異なることも認識できないはずです。
 - ② 言葉のニュアンスが人それぞれで異なるなら、言葉は通じません。
 - ③ 文章で説明すれば、ニュアンスを伝えることができます。
 - ④ 「ニュアンス」とは具体的にどういうことか説明してください。

第3問

- 「高等教育を母語で受けることができることはいいことか悪いことというのを判断することは難しいが、私個人としてはすばらしい環境の下で教育を受けていることを世界に向かって誇れる」というコメントになんと応答したか。

- ① 明治の先人たちの成果であって、あなた個人の手柄ではないですが、どうしてあなた個人が誇るのか、説明してください。
- ② 高等教育を母語で受けることができる状態を維持していくことが必要です。
- ③ 現在、英語化の波によって、高等教育を母語で受けることのできる体制が脅かされています。
- ④ 日本では高等教育を母語で受けることで、英語教育がおろそかになるという問題点もあります。

第4問

- 「(本当は猫なのに)外見が犬であるなら、直感的に感官がそれを犬だと判断するはずだ」というコメントになんと応答したか。
- ① それは、感官が誤ったということです。
 - ② そのような判断をすることは考えられないでしょう。
 - ③ 「外見が犬のような猫」はいないでしょう。
 - ④ 感官が犬だと判断しても、理性が修正します。

第5問

- 「悟性や理性の説明の際、日本語の説明は難解であるのに対して英語の解説はなぜかわかりやすく感じた。これは一体何故なのだろうか。私は二つの仮説を考えた。...おそらく私があげた説の中に正解はないだろう」というコメントになんと応答したか。

- ① 歴史的な事実を検証すれば、正解はあるはずです。
- ② 正解だと断言できるところまで証拠を集めましょう。
- ③ 授業で説明しましたので、きちんと復習してください。
- ④ なぜ正解がないと考えるのか、理由を説明してください。

第6問

- 6月15日分
 - 「徐々に哲学用語を日常生活に浸透させなければいけない」というコメントになんと応答したか。
- ① 学術用語を日常生活にあえて浸透させる必要はありません。
 - ② 学術用語が日常生活に浸透すれば、一般の人たちも学術的な見方ができるようになります。
 - ③ 哲学用語はなかなか浸透しませんが、経済学などの用語はかなり浸透しています。
 - ④ 日常生活に浸透すると、もともとの意味が変わってしまうので、かえって学術を勉強するときの妨げになります。

第7問

- 現代的な意味での「情報」概念を提示したシャノンの*The Mathematical theory of communication*の初版年は。

① 1948年

② 1908年

③ 1708年

④ 2008年

第8問

- 「経済学や法学といった学問と違い、哲学は発展させても私たちの生活に直接的な利益はもたらさないように思えてしまうのです」というコメントになんと応答したか。

- ① 人は利益のためだけに行動するではありません。
- ② 正しく考える力は大きな利益をもたらします。
- ③ 経済学や法学も直接的な利益はもたらしません。
- ④ どうすれば哲学によって利益を上げられるか考えることが必要です。

第9問

- 6月22日分
- 世俗 secularの反対語は。

① religious

② public

③ regional

④ legal

第10問

- 「帰納法が普遍に至ることができない理由は、少しずつ結果が違ふというところからきている」というコメントになんと応答したか。

- ① 「今回と同じ結果が次回も出る保証がない」というところにあります。
- ② そのとおりですね。
- ③ 微妙に異なる結果を「同じ」と見なす論理が問題です。
- ④ 前提が普遍性を持たない場合、推論結果も普遍性を持ちません。

第11問

- 「社会学で主観的現実と客観的現実について学んだ」というコメントになんと応答したか。

- ① reality (本当らしさ) と truth とは、必ずしも一致する概念ではありません。
- ② 社会学の概念と哲学の概念は異なります。
- ③ 「主観的現実」という表現は形容矛盾です。
- ④ それぞれの概念について簡潔に説明したうえで論じてください。

第12問

- 「アメリカ大統領就任の際に大統領は聖書に手を差し伸べて神に誓う場面がある。これは宗教分離に値するのではないだろうか」というコメントに対して、新田浩司「政教分離と市民宗教についての法学的考察」ではどのように説明しているか。

- ① アメリカ合衆国憲法が規定する政教分離とは、教会と国家の分離であり、宗教と国家の分離ではない。
- ② アメリカ最高裁判所では違憲判決が出ている。
- ③ アメリカ人は問題とせず、訴訟なども起こされていない。
- ④ 実はこれまでに他宗教の聖典を使った宣誓も行われている。